

<p>《高知県の教育の基本理念》</p>	<p>(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材</p>	<p>《目指すべき姿》</p>	<p>学校像 ○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくはない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校</p>	<p>目指すべき姿の概要に</p>	<p>学校経営の大きな4本柱として、I教育課程の改善、II主体的・対話的・深い学びの推進、III文化・芸術・スポーツの振興、IV働きやすくやりがいのある職場の実現に取り組む。 肢体不自由の特別支援学校として、専門家と連携した教育を進めるとともに、南海トラフ地震対応や、日常的な医療的ケア、日々の指導・支援において安心・安全な学校づくりを進める。 また、隣接する療育福祉センターのリハビリ担当者、病棟看護師等と連携し、児童生徒のよりよい支援につなげるように指導の充実を図る。</p>
<p>《取組の方向性》</p>	<p>①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域の連携・協働</p>		<p>児童生徒像 ○何事にも主体的、意欲的に取り組む児童生徒</p>		

《重点取組項目》

項目	目標【P】	評価指標	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
<p>(専門性の向上)</p> <p>教育課程の改善</p>	<p>◎教科別指導の重視 ○I類型 自立活動と国語・算数(数学)等の教科の目標と内容を明確にして実践を深め、指導事例を系統的に整理し蓄積する ○II類型 各教科等を合わせた指導と国語・算数(数学)等の教科別の指導の関連を明確にして実践を深め、指導事例を系統的に整理し、蓄積す ○III類型 肢体不自由児童生徒の特性や実態に応じた教科別指導の在り方を追求し、より良い教育課程を編成する</p>	<p>○実践事例集の作成 【中間】事例検討報告事例の選定【年度末】3事例(各グループから1本) ○各類型の新教育課程の編成</p>	<p>○作成しやすく、活用しやすい実践事例の報告様式を作成する ○各類型において、発達段階(チェックリストの活用)や特性に応じた指導事例を提出する ○集めた指導事例を、発達段階別、課題別に系統的に整理する ○検討課題を明確にし、学期ごとに各教育課程の検討を行う ○個別の指導計画の様式を検討し、実態把握⇒目標設定⇒単元設定のシステム化を進める</p>	<p>B ○作成しやすく、活用しやすい実践事例の報告様式を周知確認した ○各類型において、発達段階(チェックリストの活用)や特性に応じ指導についての確認 ○1学期の各グループの取り組み内容から見える課題を検討した ○個別の指導計画に、実態把握⇒目標設定⇒単元設定を記入した</p>	<p>B ○実践事例を4事例作成できた ○各類型の教育課程の編成 ・小学部は、すべての累計で年間15時間増の授業を実施 ・I類型は、国語算数の時間を設けて取り組んだ ・中等部のIII類型は、教科学習の内容を他の教科と連携し横断的に取り組んだ (1)授業 ①83.3% ②8.3% ③4.2% ④0% ⑤4.2% (2)個別の指導計画等 ①37.5% ②50% ③0% ④0% ⑤12.5%</p>	<p>B (1)授業 児童……①37.5% ②37.5% ③0% ④12.5% ⑤12.5% 生徒……①0% ②75% ③25% ④0% ⑤0% 保護者……①68% ②12% ③4% ④4% ⑤12% (2)個別の指導計画等 児童……①62.5% ②25% ③0% ④12.5% ⑤0% 生徒……①40% ②20% ③40% ④0% ⑤0% 保護者……①68.0% ②24% ③0% ④0% ⑤8%</p>	<p>○実践事例集の活用 ・活用により教員の困り感の軽減 ・活用により教員の授業力の向上 ・新たな実践の蓄積 ○教育課程について ・小学部は、すべての類型で年間15時間増で授業を実施 ・I類型は、国語・算数(数学)の実施を継続 ・小学部のII類型の教科型は、高学年に社会、理科の内容を一部取り入れる ・III類型は当該学年の目標達成、内容習得を目指すために(必要に応じて)前学年・前学期の内容を復習等の継続</p>
	<p>主体的・対話的・深い学びの推進</p>	<p>◎「主体的な学び」と「対話的な学び」の推進、「深い学び」の追求 ○「主体的対話的な深い学びの視点での授業改善シート」を活用した公開授業の積極的な実施により授業改善に取り組む</p>	<p>○III類型児童生徒の授業満足度(学校評価アンケートでの「そう思う」回答)60%以上 ○全教員の公開授業実施100% 【中間】30% 【年度末】100% ○公開授業での「主体的対話的な深い学びの視点での授業改善シート」活用率100%</p>	<p>○授業改善のシステムを確立し、全教員が公開授業を実施し、授業改善に繋げる ○全教員が「主体的対話的な深い学びの視点での授業改善シート」での授業の振り返りを行う</p>	<p>B ○6月末より公開授業を始め、9月末現在10名/27名(37%)実施 ○10月以降の公開授業の予定も計画している ○分科用に授業改善シートを作成し、公開授業後に活用して振り返りを行っている。(10名/10名)</p>	<p>B ○6月末より公開授業を始め12月末現在27名/27名(100%)実施 ○III類型児童生徒の授業満足度(学校評価アンケートでの「そう思う」回答50%)60%以下 ○分科用に授業改善シートを作成し、公開授業後に活用して振り返りを27名/27名(100%)実施 (3)主体的、対話的で深い学び ①25% ②54.1% ③4.2% ④0% ⑤16.7%</p>	<p>B (3)主体的、対話的、深い学び 児童……①62.5% ②25% ③0% ④12.5% ⑤0% 生徒……①25% ②25% ③25% ④25% ⑤0% 保護者……①60% ②24% ③8% ④0% ⑤8% ○運動会や学習発表会 学校関係者……①54.3% ②28.6% ③0% ④0% ⑤17.1%</p>
<p>(文化・芸術・スポーツの振興)</p>	<p>◎文化・芸術の推進 ○文化・芸術に関連した学習及び社会参加の一層の推進を図る ◎障害者スポーツの振興 ○体育や部活動に障害者スポーツの競技種目を取り入れる等社会参加の一層の推進を図る ○ポッチャ等の障害者スポーツを関係機関と連携して振興を図る</p>	<p>○文化・芸術・スポーツに関連した行事・校外学習の実施 ○児童生徒の積極的な作品の出品 【中間】50% 【年間】100% ○障害者スポーツ大会への参加 【年間】2名 ○交流及び共同学習、行事等でのポッチャの実施 【中間】3回以上 【年間】5回以上</p>	<p>○文化・芸術・スポーツに関連した校外学習の実施内容、実施場所の开拓をする ○出品可能な作品展を広く周知する ○作品展への出品作品の作成を年間学習計画に位置付ける ○障害者スポーツセンターとの連携を進める ○授業での障害者スポーツの取組を推進する ○交流及び共同学習での、ポッチャの積極的な取組推進と、本校でポッチャ大会を関係機関と連携して企画・開催する</p>	<p>A ○紙と遊ぼうに作品を3作品出展し、19名/31名(61%) ・高知県手すき和紙協同組合理事長賞(中等部) ・入賞(小学部2クラス) ○2020こころ総文 生徒実行委員に選考された生徒(1名)が、参加している ○2020こころ総文 生徒実行委員に選考された生徒(1名)が、参加している</p>	<p>A ○作品展への出展 24/31(77.4%) 紙と遊ぼう、肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展、にこにこふれあいフェア ○2020こころ総文 生徒実行委員に選考された生徒(1名)が、参加している (4)美術作品等の制作 ①45.8% ②41.6% ③8.3% ④0% ⑤4.2% ○障害者スポーツ大会に高等部の生徒1名参加 … 卓球の部(優勝) ○交流及び共同学習でポッチャを2回実施 ○高知県ジュニアポッチャ大会に高等部の生徒2名参加 … シングル戦(座位の部)優勝、チーム戦(ベアの部)優勝 (5)スポーツ活動 ①20.8% ②62.5% ③12.5% ④0% ⑤4.2%</p>	<p>A (4)美術作品等の制作 児童……①62.5% ②25% ③12.5% ④0% ⑤0% 生徒……①50% ②50% ③0% ④0% ⑤0% 保護者……①84% ②8% ③0% ④0% ⑤8% (5)スポーツ活動 児童……①62.5% ②25% ③0% ④12.5% ⑤0% 生徒……①0% ②75% ③0% ④0% ⑤25% 保護者……①52% ②36% ③4% ④0% ⑤8%</p>	<p>○作品展への出品は、毎年ある作品展に加えて『2019プレ大会』に向けて作品作り ○障害者スポーツへの参加は、同じ生徒になっっているため、他の家庭への啓発</p>
<p>(働きやすくなるやりの実現)</p>	<p>◎時間と労力の無駄を省き、子どもに向き合う時間を確保する ○校務分掌等の整理や業務内容の精選・見直しにより、会議の縮減と時間の短縮を図る ○人材活用や書類の精選・合理化により、授業準備に充てる時間を捻出する</p>	<p>○教員の教材研究の時間確保満足度(学校評価アンケートでの「そう思う」・「ややそう思う」回答)70%以上 ○学部会の開催、月3回以下 ○19時退勤100%とノー残業デイの徹底</p>	<p>○分掌、専門員会の業務内容を精選・見直しすることにより明確化する ○会議の議題の事前周知等の進行方法について確認し、時間短縮に取り組む ○教材準備の時間確保について検討、実施する ○ノー残業デイの徹底を図る</p>	<p>C ○分掌、専門員会の業務内容を精選・見直し中であるが、次々新しい業務がきており難しい面がある ○会議の短縮化を図るために議題の精選や伝達の方法を検討し取り組み中である ○19時退勤は、70%程度である ○ノー残業デイには、定時退庁を促すようにしている ○9.12「機械警備の日」として18時に一斉退勤を実施した</p>	<p>C ○実質稼働しなかった専門員会を削減させる方向で検討 ○分掌、専門員会の業務内容を精選・見直し不十分 ○月に3回程度ある研究日を減らす ○19時退勤は、70%程度である ○学部会は、毎週水曜日に実施され、削減ができなかった ○9月より「機械警備の日」として18時に一斉退勤を8回実施した (10)昨年と比べた教材研究の時間 ①12.5% ②37.5% ③12.5% ④16.7% ⑤20.8% (6)療育福祉センター(PT、OT、ST)との連携 ①20.8% ②70.8% ③0% ④0% ⑤8.3%</p>	<p>C (6)療育福祉センター(PT、OT、ST)との連携 児童……①37.5% ②25% ③0% ④12.5% ⑤25% 生徒……①0% ②0% ③25% ④0% ⑤75% 保護者……①48% ②36% ③4% ④4% ⑤8% 学校関係者……①28.6% ②40% ③5.7% ④0% ⑤25.7%</p>	<p>○研究日は月に2回程度で実施 ○分掌、専門員会の業務内容を精選・見直し ○療育福祉センター(PT、OT、ST)との連携は継続して実施</p>